

労連主催「第8回グリーンジョブ研修フクシマ」開催！！

今回の研修のポイント

- (1)常磐線運転再開区間に立ち、「安全労働・健康労働」のあるべき姿とは？
- (2)復興を通じて何が目指されているのか？～フクシマと日本の構造～
- (3)「グリーンジョブ」とは何か？～自然エネルギーと私たちの働き方～

富岡町

2011年3月11日に起きた原発事故による避難指示で約16000人が住居を奪われ、地域の中核を担う機能は失われた。震災以降順次復興してきた常磐線は2017年10月に富岡駅まで開通。2020年3月14日に「富岡～浪江間」が開通し、全線で運転再開した。



富岡町 東日本大震災慰霊の碑

この地域では震災と津波により24人が犠牲になり、そのうち6人が行方不明となった。助けに行きたかったが、助けに行けなかった。原発事故によって避難を余儀なくされた町民の無念や後悔、長期避難生活での心身の疲弊も刻まれている。



福島イノベーション・コースト構想

政府や県、民間企業も含めて、復興に向けて産業を回復するために新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト。これにより2020年に常磐線全線開通したが、今でも線量の高いエリアを被曝労働している現状がある。双葉町の復興産業拠点に進出した企業も20社あるうち地元の企業は3社のみであった。



参加者からの感想

今年度から新たな成長を見つけるために参加しました。富岡町を訪れ、復興の光と影、原発事故の教訓を改めて実感しました。遠藤代表の講演では「先入観は可能を不可能にする」「諦めることを諦める」という言葉に感銘を受け、地域に根ざした活動の大切さを再認識しました。以前、富岡町に訪れたときに植えたブドウの成長も確認でき、継続する意義を感じました。人とのつながりを大切に、学びを今後の地域共生や職場活動に生かしていきます。